

高知県感染症発生動向調査(週報)

2011年第1週[1月3日~1月9日]

高知県衛生研究所 高知県感染症情報センター
TEL:088-821-4961 FAX:088-825-2869
<http://www.kenkou.med.pref.kochi.lg.jp/eiken/>
E-mail:kansen@ken4.pref.kochi.jp

県内情報

○ 患者情報総評

注意報発令疾患：水痘

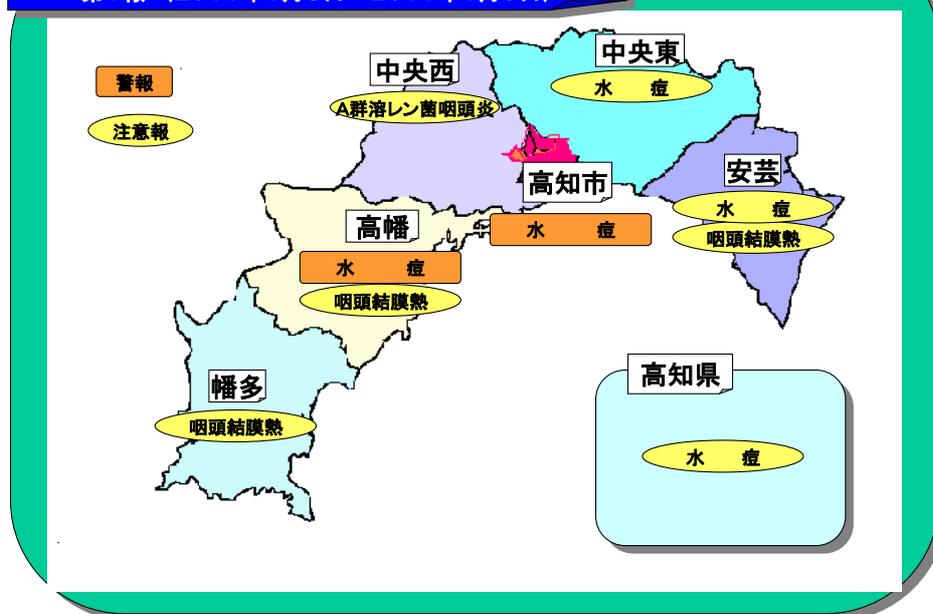
- ・ 晴れの日が多いが、厳しい寒さが続いている。
- ・ 感染性胃腸炎は幡多と高幡でやや増加したが、その他の地域で減少し、総数は前週の約7割に減少した。
- ・ 水痘（高知市：注意報→警報，高幡：警報→警報，中央東：注意報，安芸：注意報）は高幡では減少したが、その他の地域で増加し、総数は約1.7倍増となった。
- ・ インフルエンザは安芸では横ばいの報告であったが、その他の地域で増加し、総数は約3.1倍となった。
- ・ 咽頭結膜熱（安芸：注意報，高幡：注意報，幡多：注意報→注意報）は中央西を除く地域で増加し、総数は約2.7倍増となった。例年冬季は低いレベルで推移しており、過去同時期と比較すると最も多い報告数となっている。

上位疾患構成図



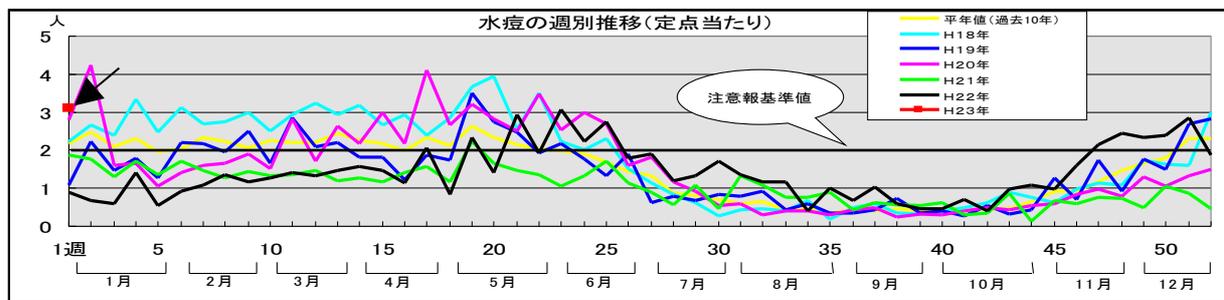
地域別感染症注意報・警報発生状況

第1報（2011年1月3日~2011年1月9日）



水痘：今週3.10（注意報値：2.00 警報値：4.00）

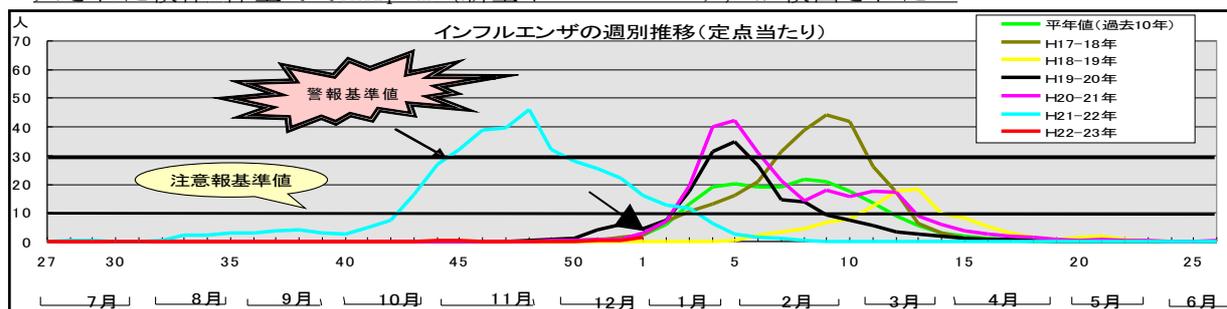
総数は再び増加し、注意報値を超した。地域毎にみると、高知市と高幡で警報値を超し、中央東と安芸で注意報値を超している。



インフルエンザ：今週1.06（注意報値：10.00 警報値：30.00）

総数はさらに増加し、流行開始の指標といわれる定点当たり1.0を超した。今後は急増することも考えられるため、推移に注意が必要である。

※検査速報として、年末に搬入された検体ではAH3（A香港型）が1件検出されたが、年明けに搬入された検体7件全てでAH1pdm（新型インフルエンザ）が検出された。



感染性胃腸炎：今週9.57（注意報値：12.00 警報値：20.00）

総数はさらに減少し、注意報値を下回った。しかし、例年どおりであれば、今後はロタウイルスが流行することも考えられるため、引き続き注意が必要である。

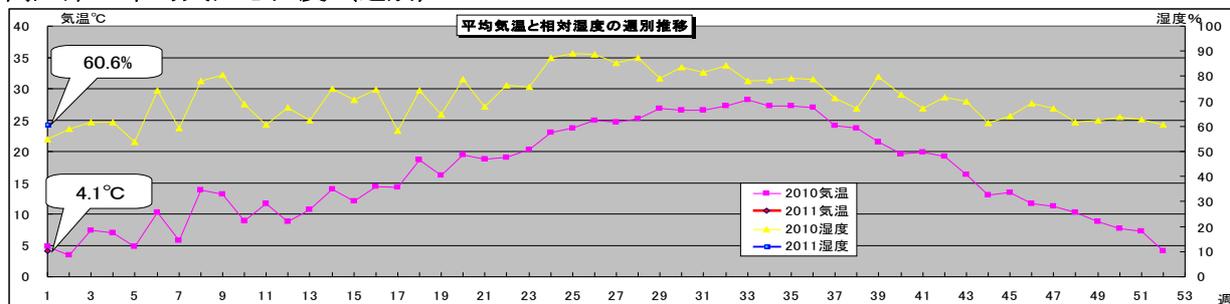
○ 検査情報

週	臨床診断名	患者	地域	ウイルス、細菌の検出状況
1	マイコプラズマ肺炎	5歳 女	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>
1	マイコプラズマ肺炎	6歳 男	高幡	<i>Mycoplasma pneumoniae</i>

○ 全数報告の感染症情報

2類感染症：結核 3例（81歳女，33，89歳男）《高知市》（22年156例）
5類感染症：梅毒 1例（74歳女）《高知市》（今年1例）

○ 高知県の平均気温と湿度（週別）



○ 定点からの地域ホット情報

幡多：

- 《さたけ小児科》：マイコプラズマ肺炎 2例（0，2歳女） 口唇ヘルペス 1例（3歳男）
- 《大井田病院小児科》：インフルエンザの3例はA型陽性
- 《渭南病院小児科》：インフルエンザの3例（1歳女，3，25歳男）はA型陽性，予防接種歴なし
- 《松谷内科》：A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 2例（10，24歳男）は迅速キットで陽性

高幡：

《もりはた小児科》：インフルエンザの2例（5歳男，7歳女）はA型陽性，予防接種歴なし
ヘルペス性歯肉口内炎 2例（1歳男）

《くぼかわ病院内科》：インフルエンザの1例（40歳男）はA型陽性

中央西：

《石黒小児科》：単純ヘルペス 1例（6歳女） 水痘の1例（3歳男）は予防接種1回済み

《くぼたこどもクリニック》：感染性胃腸炎の1例（8ヵ月男）は須崎市，1例（1歳男）は県外から帰省，
1例（1歳女）は国外から帰省，1例（2歳女）は南国市
口唇ヘルペス 1例（23歳女）
インフルエンザの3例は全てA型陽性

《岡本内科》：感染性胃腸炎の2例はノロウイルス感染症と思われるが発生は減少した

高知市：

《けら小児科・アレルギー科》：アデノウイルス扁桃炎 4例（1歳女:2例，1，2歳男）
インフルエンザの4例は全てA型陽性
マイコプラズマ肺炎 1例（6歳男）

《細木病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

《高知赤十字病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

《近森病院内科》：インフルエンザの10例は全てA型陽性，うち6例は予防接種歴なし

《高知医療センター内科》：インフルエンザの3例は全てA型陽性，うち1例は予防接種歴あり

中央東：

《高知大学医学部附属病院小児科》：インフルエンザの4例中2例（11，14歳男）はA型陽性
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の1例（10歳男）は紫斑病併発
咽頭結膜熱の1例（3歳男）はアデノウイルス陽性

《吉本小児科皮膚科》：インフルエンザの1例（1歳女）はA型陽性

《野市中央病院小児科》：インフルエンザの2例は兄妹で1例（7歳男）はA型陽性，1例（5歳女）は
臨床診断，2例とも予防接種歴なし

《早明浦病院小児科》：某保育園で水痘が流行中

《JA高知病院内科》：インフルエンザの3例は予防接種歴なし

《野市中央病院内科》：インフルエンザの3例（23，33歳男，40歳女）は全てA型陽性

《嶺北中央病院内科》：インフルエンザの1例はA型陽性

安芸：

《県立安芸病院小児科》：インフルエンザの1例（15歳男）はA型陽性

《県立安芸病院内科》：インフルエンザの2例はA型陽性

全国情報第50週（12/13～12/19）（<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>）

2類感染症：結核334例

3類感染症：細菌性赤痢2例、腸管出血性大腸菌感染症13例（有症者7例、うちHUSなし）

4類感染症：E型肝炎2例、A型肝炎3例、つつが虫病31例、デング熱2例、マラリア2例、レジオネラ症3例

5類感染症：アメーバ赤痢7例、ウイルス性肝炎（B型）2例、急性脳炎3例、クロイツフェルト・ヤコブ病3例、
劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、後天性免疫不全症候群14例（AIDS 4例、無症候10例）、梅毒7
例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症3例、風しん3例、麻しん5例

報告遅れ：デング熱1例、日本紅斑熱2例、レジオネラ症1例、急性脳炎2例、バンコマイシン耐性腸
球菌感染症3例

◆インフルエンザ

感染症発生動向調査では、全国約5,000カ所（小児科定点約3,000、内科定点約2,000）のインフルエンザ定
点からの報告に基づいてインフルエンザの発生動向を分析している。2010年第50週のインフルエンザの定点
当たり報告数は1.41（報告数6,758）となり、第42週以降9週連続で増加が続いている。また2010/11シーズン
では全国的な流行開始の指標である1.00を初めて上回った。都道府県別では佐賀県（8.26）、長崎県
（7.36）、北海道（5.87）、大分県（2.55）、宮城県（2.52）、埼玉県（2.44）、山梨県（2.33）、福井県
（2.06）の順となっている。定点当たり報告数が1.00を超えているのは20都道県に及んでおり、特に佐賀県、
長崎県の増加が目立つ。

2010年第36～50週までの期間中に国内では1,042検体のインフルエンザウイルスの検出が報告されており、
AH1pdm 376件（36.1%）、AH3亜型（A香港型）624件（59.9%）、B型42件（4.0%）とこれまでのところAH3亜型
が最多を占めているが、第49週、第50週の直近の2週間ではAH1pdmの方が報告数が多くなっている。

日本のインフルエンザの患者報告数は増加が続いているが、北米、ヨーロッパ、モンゴル、中国、韓国等の他
の北半球の国々も、冬季を迎えてインフルエンザの報告数が増加してきている。過去の季節性インフルエン
ザの流行の例をみると、わが国では、今後冬季休暇が終了し、学校、幼稚園、保育所等の小児の集団生活施設が
再開した後の1月中旬以降に流行が本格化していく可能性が高い。インフルエンザの発生動向には、今後更に
注意深い観察が必要である。

定点名	疾病名	医療圏 安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(52週)	高知県(1週末累計) H23/1/3~H23/1/9
			中央東	高知市	中央西						
内科・小児科	インフルエンザ	3	14	34	13	3	10	77 (1.60)	25 (0.52)	10,851 (2.30)	77 (1.60)
小児科	咽頭結膜熱	3	1	6		3	6	19 (0.63)	7 (0.23)	1,364 (0.46)	19 (0.63)
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		5	17	9	1	5	37 (1.23)	38 (1.27)	3,485 (1.17)	37 (1.23)
	感染性胃腸炎	22	68	121	32	23	21	287 (9.57)	391 (13.03)	25,608 (8.59)	287 (9.57)
	水痘	4	24	50	4	8	3	93 (3.10)	56 (1.87)	6,109 (2.05)	93 (3.10)
	手足口病		1					1 (0.03)	4 (0.13)	322 (0.11)	1 (0.03)
	伝染性紅斑								2 (0.07)	1,125 (0.38)	(0.00)
	突発性発疹	1		3		2	2	8 (0.27)	10 (0.33)	899 (0.30)	8 (0.27)
	百日咳									69 (0.02)	(0.00)
	ヘルパンギーナ	1	1					2 (0.07)	1 (0.03)	77 (0.03)	2 (0.07)
	流行性耳下腺炎		1	2				3 (0.10)	4 (0.13)	2,788 (0.94)	3 (0.10)
	RSウイルス感染症		14	38			6	58 (1.93)	40 (1.33)	3,223 (1.08)	58 (1.93)
眼科	急性出血性結膜炎								0.00	11 (0.02)	(0.00)
	流行性角結膜炎			2				2 (0.67)	3 (1.00)	327 (0.50)	2 (0.67)
基幹	細菌性髄膜炎								2 (0.29)	11 (0.02)	(0.00)
	無菌性髄膜炎									6 (0.01)	(0.00)
	マイコプラズマ肺炎								2 (0.29)	183 (0.40)	(0.00)
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									12 (0.03)	(0.00)
計 (小児科定点当たり人数)		34 (16.25)	129 (17.70)	273 (23.67)	58 (17.60)	40 (19.25)	53 (9.85)	587 (18.54)			
前週 (小児科定点当たり人数)		35 (16.75)	113 (16.09)	300 (26.27)	56 (18.00)	46 (22.75)	35 (6.85)		585 (18.95)	56,470	587 (18.54)

定点当たり

第1週

定点名	疾病名	医療圏 安芸医療圏	中央医療圏			高幡医療圏	幡多医療圏	計	前週	全国(52週)
			中央東	高知市	中央西					
内科・小児科	インフルエンザ	0.75	1.27	2.13	2.60	0.75	1.25	1.60	0.52	2.30
小児科	咽頭結膜熱	1.50	0.14	0.55		1.50	1.20	0.63	0.23	0.46
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.71	1.55	3.00	0.50	1.00	1.23	1.27	1.17
	感染性胃腸炎	11.00	9.71	11.00	10.67	11.50	4.20	9.57	13.03	8.59
	水痘	2.00	3.43	4.55	1.33	4.00	0.60	3.10	1.87	2.05
	手足口病		0.14					0.03	0.13	0.11
	伝染性紅斑								0.07	0.38
	突発性発疹	0.50		0.27		1.00	0.40	0.27	0.33	0.30
	百日咳									0.02
	ヘルパンギーナ	0.50	0.14					0.07	0.03	0.03
	流行性耳下腺炎		0.14	0.18				0.10	0.13	0.94
	RSウイルス感染症		2.00	3.45			1.20	1.93	1.33	1.08
眼科	急性出血性結膜炎									0.02
	流行性角結膜炎			2.00				0.67	1.00	0.50
基幹	細菌性髄膜炎								0.29	0.02
	無菌性髄膜炎									0.01
	マイコプラズマ肺炎								0.29	0.40
	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)									0.03
計 (小児科定点当たり人数)		16.25	17.70	23.67	17.60	19.25	9.85	18.54		
前週 (小児科定点当たり人数)		16.75	16.09	26.27	18.00	22.75	6.85		18.95	

2010年～2011年週報推移(定点当たり)

